

2012年04月15日

福岡市の吉塚合同庁舎で2月26日、第6回世界遺産専門家会議が開かれました。

【市内の構成資産候補】

●宗像神社境内

▽沖津宮（沖ノ島）

▽中津宮（大島）

▽沖津宮遙拝所（大島）

▽大島御嶽山遺跡（大島）

▽辺津宮（田島）

●古墳

▽東郷高塚古墳（日の里）

▽桜京古墳（牟田尻）

●遺跡

▽田熊石畑遺跡（田熊）

*大島御嶽山遺跡と田熊石畑遺跡は、暫定リスト記載後に発見されて候補地になった資産

図1 市内の構成資産候補



議論の中心は、世界遺産としての顕著な普遍的価値と登録基準（表1）を照合しながら、構成資産をどのように選択するかという点でした。

- 1) 沖ノ島祭祀は、4世紀から9世紀にかけての遺跡だが、時期を限定した不動産に普遍的な価値を求めてよいか
- 2) 限定された期間の遺跡と現在も継続する信仰をどのように整理するのか
- 3) 宗像大社の三宮が視覚的軸線上に位置する不動産であることに価値があるのか
- 4) 昨年11月の国際専門家会議では、古墳を構成資産候補に含めるべきという意見でほぼ一致したが、世界遺産の価値を説明する上で不可欠な古墳はどれなのか

これらの議論を基に世界遺産としてふさわしいコンセプトやストーリーを作成していきます。

構成資産を決める上で、もう一つ重要な判断材料があります。それは、資産そのものの完全性と周辺の保存状態です。完全性とは、資産そのものが完全な形で存在しているかどうかです。資産そのものが、道路や宅地などの開発で一部しか残っていないなどの場合は、復元や整備などの対応が必要となります。

また、古墳や遺跡そのものの完全性が担保されていても、周辺が既に開発され、以前の地形が残っていないなど緩衝地帯に問題のある場合は、構成資産に入れるのに困難が伴います。

議論を重ねた結果、構成資産は「宗像神社境内」に「古墳」を加えるという方向性を確認。ただし、全てを入れるのではなく、一定の基準を設けて絞り込む必要があるとしました。

東郷高塚古墳は、構成資産の必須条件である国指定史跡ではないため、今すぐに構成資産とすることが難しい状況です。さらに、周辺は日の里団地として造成されていてバッファゾーンとしても課題が山積しています。

田熊石畑遺跡も、メインとなる時代が弥生時代であり、沖ノ島祭祀遺跡と直接結びつきません。

また、古墳時代の遺構として検出された倉庫群だけでは世界遺産の価値を語ることが難しく、豪族居館など古代豪族胸形氏の中核施設が遺跡として検出されない限り、構成資産としては難しい状況です。加えて、周辺は商業地区や第1種住居地域などの都市計画区域で、近くにはJR鹿児島本線も走り、すでにバッファゾーンとしての設定が難しくなっています。

しかし、現在候補となっている資産については、構成資産から外れたとしても、ユネスコ世界遺産委員会へ提出する推薦書には経緯を含めて記述します。たとえ世界遺産となることができなくても、個々の遺跡には重要な価値があります。

宗像の歴史を世界遺産と共に伝えていくことが私たちの使命ではないでしょうか。

表1 登録基準

1	人間の創造的才能を表す傑作である。
2	建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流またはある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
3	現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統または文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。
4	歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。
5	あるひとつの文化（または複数の文化）を特徴づけるような伝統的居住形態もしくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。または、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である（特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまれているもの）。
6	顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。

*文化遺産には6つの基準があり、1つ以上に該当する必要がある

世界遺産への道4 1 <<3Dシアターで沖ノ島の魅力体感>>

2012年05月15日

郷土文化学習交流館「海の道むなかた館」が4月28日にオープンしました。館内では、宗像の文化財展示や体験学習などを楽しめます。

また、館は「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動の情報発信拠点としての役割も担っています。常設展示では、市内の遺跡から見つかった貴重な出土品などと共に、本遺産に関する資料を展示しています。常設展示室の奥には3Dシアターがあります。このシアターでは、通常上陸することができない沖ノ島の魅力を150インチの大画面で紹介。沖ノ島の巨大な岩や貴重な動植物などの自然、祭祀（さいし）遺跡の様子に加え、沖津宮現地大祭などの伝統の祭りなどをまるでその場にいるかのように3Dで体感できます。映像製作では、九州大学芸術工学研究院の金大雄（キムデウ）准教授に多大な協力をしてもらいました。

通常は沖ノ島へ行くことができませんが、年に一度、沖津宮現地大祭の日に男性のみ約200人が上陸して参拝できます。世界遺産に登録されても、このおきてが緩和されることはありません。このような貴重な遺産を後世に残すことが世界遺産登録の目的であるからです。

とはいっても、宗像が誇る沖ノ島をより多くの人に知ってもらいたいことは私たちの願いです。そういった意味では、沖ノ島を正しく知ってもらうことができるこの映像システムは大きな意味があると思います。ぜひ一度、この映像を体験してください。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室（海の道むなかた館内） ☎ (62) 2617

沖ノ島を迫力ある150インチの大画面で体感できる3Dシアター



常設展示室にはミニ3Dモニター



世界遺産への道 4 2 <世界遺産に登録された平泉の歴史>

2012年06月15日

今回から3回にわたり、昨年世界遺産に登録された平泉（岩手県）について紹介します。実は、宗像にも縁があります。

宗像・大島の安昌院という寺の横に、安倍宗任の墓があります。安倍氏は、平安時代の終わり、現在の岩手県南部地方を支配していた領主で、衣川から北上川流域を範囲とする6つの郡（奥六郡）を治めていました。

しかし、前九年合戦（1051～1062年）において、朝廷側の源頼義と出羽の清原氏との戦いで父の頼良が殺害され、その後を継いだ兄の貞任も源頼義の前で亡くなり、安倍氏は滅びました。宗任は、降伏したことで命は免れ、四国の伊予（愛媛県）に流され、その後、宗像の大島に流されたといわれています。

その安倍一族の血を引くのが、奥州藤原氏の祖である藤原清衡。昨年、世界遺産となった平泉の生みの親です。

藤原清衡は、前九年合戦が終結した時は7歳。その後、清原一族の内紛で後三年合戦（1083～1087年）が始まり、清衡の妻子も殺害されます。この時、清衡は28歳。そして、清原氏を陥落させ合戦を終わらせた時、清衡は32歳。このころ奥六郡の管領となり、実質的に東北地方を治めることとなります。

二度の骨肉の争いに巻き込まれた清衡は、東北地方に平和をもたらしたいと強く思うようになります。仏教に帰依し、中尊寺の釈迦堂や経蔵などを建立、「紺紙金銀字交書一切経（こんしきんぎんじこうしょいっさいきょう）」を写経するなどしました。そして1124年、中尊寺に金色堂が上棟されます。その4年後、清衡は死去します。

生きとし生ける者の敵味方なく平和な理想社会をこの世に造り出したいという思いは、仏国土（浄土の世界）という形で表現されました。二代目基衡は毛越寺を、その妻は観自在王院を、三代目秀衡は無量光院を築きます。その後、源平合戦や戦国時代など戦乱を迎えますが、東北地方にはその影響は少なかったといわれています。



中尊寺金色堂

世界遺産への道43 《長く厳しい道のり 平泉の世界遺産登録》

2012年07月15日

「平泉・仏国土（浄土）を表す庭園・建築及び考古遺跡群」は昨年、世界遺産に登録されました。平成13年に暫定リスト記載を受けてから、10年を費やしましたが、長く厳しい道のりだったようです。

世界遺産登録が厳しいと言われ始めたのは、石見銀山が登録された平成19年ごろからでした。石見銀山でも、鉱山遺跡だけでは登録が難しいと指摘され、鉱石を運ぶ道と船に積み込むための港を拡張して構成資産としました。

推薦書提出後、世界遺産センターの依頼を受けたイコモス（国際記念物遺跡会議）が現地視察と勧告を出し、「登録延期」となりました。

しかし、世界遺産委員会では、自然破壊を伴わず、自然を保護しながら鉱山を営んだ遺産は世界に類を見ないということで、「登録」となりました。

平泉もこれを受けて、庭園や金色堂だけでなく、平泉文化を象徴するものに構成資産を拡張しました。そのため、奥州藤原氏の政務の場であった柳之御所遺跡や、前九年合戦で破れた奥州藤原氏の祖先である安倍氏が建立した寺院、初代清衡の時に中尊寺の寺領として開発した骨寺荘園跡などを構成資産に選びました。

しかし、平成20年の世界遺産委員会では、価値の中心となる浄土思想と荘園や寺院との関係がうまく説明できていないという理由から残念ながら「登録延期」となりました。

そこで、構成資産は、浄土思想を表す資産として絞り込み、中尊寺金色堂、毛越寺庭園、観自在王院跡、金鶏山、柳之御所遺跡を選定。そして、平成23年のイコモスの勧告や世界遺産委員会で「記載」という結果となり、世界遺産登録を果たしました。

それでもなお、柳之御所遺跡は浄土思想との関係が乏しいということで構成資産から除外され、課題の残る結果となっています。

本年度、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、構成資産を決定します。国内の専門家会議の議論を踏まえて構成資産を選定し、推薦書に盛り込んでユネスコ世界遺産委員会へ提出します。その後、イコモスの視察や勧告、最終的な世界遺産委員会での議論を経て、世界遺産登録の可否が決まります。



安倍氏の一族によって建立された寺院跡

世界遺産登録活動をPR オリジナルナンバープレートデザインを募集

2012年07月15日

市では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」をPRする原動機付自転車のナンバープレートのデザインを募集します。この事業は、来年、旧宗像市と旧玄海町の合併10周年記念事業の一環として取り組むものです。

■問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎ (62) 2617

●応募要件

居住地、年齢などの制限なし

*ただし、最優秀賞に選ばれた場合は、表彰式(日時未定)に出席することができる人

●応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入するか、A4白色用紙に①住所②氏名③年齢④学校名・職業⑤デザイン(縦10センチ×横20センチ枠)⑥デザインの意図や思い(100字程度)を記入して、世界遺産登録推進室へ次のいずれかの方法で応募する

▽郵送(〒811・3504/深田588/海の道むなかた館)

▽海の道むなかた館へ直接持参

*応募詳細は、以下をクリック

・[応募詳細\(pdf\)](#)

*所定の応募用紙は、以下をクリック

・[応募用紙\(エクセル\)](#) ・[応募用紙\(pdf\)](#)

また、市役所総合案内、海の道むなかた館、各コミセンなどで入手可

*デザインの提出は電子データ(jpegかpdf)でも可

●募集期間

9月3日(月)必着

●選考/賞

事務局で3作品を選定。その中から市民投票で以下の賞を決定

最優秀賞=1点/賞金6万^む7000^な円と宗像市特産品

▽優秀賞=2点/賞金2万円と宗像市特産品

*最優秀賞をデザイン原案として採用

詳しくは、チラシやポスターか、世界遺産登録推進室へ問い合わせを。



参考例

宗像ユリックスでシンポジウム開催

2012年08月08日

●主催 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（福岡県、宗像市、福津市）

●日時 9月8日（土）午後1時～同4時30分

●場所 宗像ユリックス・イベントホール

●内容 世界遺産を目指したまちづくり「文化遺産とわたしたちの暮らし」

●パネリスト

▽西谷正さん（海の道むなかた館長）

▽ガミニ・ウィジェスリヤさん（イクロム・プロダクトマネージャー）

▽フंक・カロリンさん（広島大学准教授）他

●入場料 無料

●申込方法 8月31日（金）必着で、①住所②氏名③電話番号を明記して県世界遺産登録推進室シンポジウム事務局へ次のいずれかの方法で申し込む

▽ハガキ（〒812・8577／住所不要）

▽FAX 092（643）3163

▽メール sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp

■問い合わせ先 県世界遺産登録推進室 ☎092（643）3162

詳細チラシ（PDF）は [こちら](#)

世界遺産への道44 《資産を守る緩衝地帯(平泉の場合)》

2012年08月15日

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を世界遺産へ登録するためには、顕著な普遍的価値があるか、その価値を将来世代に引き継いで守っていくことができるかが大きなカギとなります。

価値については、現在専門家会議で議論を重ねていますが、守るということについては、みなさんの協力が必要です。資産そのものを保護し、管理することは当然ですが、資産を適切に保全するための緩衝地帯を設けることも必要です。

昨年、世界遺産に登録された平泉では、中尊寺金色堂や毛越寺（もうつうじ）庭園などが資産として選ばれました。町では、その資産を保護するために町全域を景観計画区域として、歴史景観地区、風土景観地区、一般景観地区の3つに分けて緩衝地帯として設定しています。世界遺産登録活動は、資産を守ることに目がいきがちですが、資産周辺の景観を残すことも大きな目的なのです。

宗像の世界遺産に関係する景観はどうでしょう。本遺産は、航海安全の信仰と人の営みがつくり出した風土とが、一体のものであることに価値があると考えています。宗像大社周辺には大規模な開発もなく、山と田畑と集落が織り成す空間、昔から続く自然と人間の生活空間がバランスよく残されています。

また、市全体に目を向けると、緑多い山々や玄界灘の荒波がつくり出した海岸線の風景などもあります。このような景観を次世代につないでいくことは、世界遺産活動の重要な役割であり、私たちの使命です。



平泉毛越寺周辺の街並み景観

9月はオガチマンス（むなかた世界遺産月間）

2012年08月29日

市民組織「宗像・沖ノ島世界遺産市民の会」では、9月を「オガチマンス」として、世界遺産登録活動を盛り上げるイベント等を実施します。

※詳細は添付のチラシをご覧ください

みなさんの参加を待っています。

9月は「むなかた世界遺産月間」
オガチマンス

平成24年 宗像ユリックスハーモニーホール
9月17日(月・祝)
第一回 開場 12:30 開演 13:00
第二回 開場 16:30 開演 17:00

大人 ¥1,000 (当日 ¥1,100)
小人 ¥500 (当日 ¥550)

チケットのお求めは
宗像ユリックスハーモニーホール 宗像ユリックスハーモニーホール

TEL 0940-27-2803

世界遺産への道 4 5 《構成資産が決定》

2012年09月15日

福津市のカメラホールで8月4日、「宗像・沖ノ島と世界遺産群」世界遺産推進会議が開かれました。その中で、専門家会議から顕著な普遍的価値と構成資産に関する提言書が提出され、承認されました。

これによって、本遺産の構成資産は、(1)沖ノ島(2)宗像神社(沖津宮・中津宮・辺津宮)(3)津屋崎古墳群(新原・奴山古墳群)となりました。遺跡、古墳については新原・奴山古墳群のみとなりました。

これは、沖ノ島祭祀(さいし)を発展させた古墳時代の宗像地域で、「海北道中」を支配した海の民の集団のあり方を最もよく表象するものであることが理由です。

また、この提言書の中では、桜京古墳や田熊石畑遺跡など構成資産に含まない資産も歴史的な関連性について推薦書の中で記述。国と地元が責任を持って世界遺産と一体のものとして保存・活用することが必要であると付記されています。資産のコンセプトなど詳細は次回お知らせします。



新原・奴山古墳群

～．

◆ 9月30日(日)のイベントのお知らせ ◆

灯籠設置ウォーキング参加者募集

新神湊港渡船ターミナル完成記念イベント「みあれ祭前夜祭」の一環として、ケミカルライトの灯籠(とうろう)を県道沿いに並べ、その道を大花火大会会場の神湊までウォーキングします。

灯籠設置作業を手伝ってくれる人とウォーキングに参加する人を募集します。

●日程 9月30日(日)

●集合場所 海の道むなかた館

●時間

▽灯籠設置作業=午後1時30分～

▽ウォーキング=午後5時30分～

世界遺産への道 4 6 《構成資産の選定理由》

2012年10月15日

前回は、今後世界遺産へ登録していくべき構成資産の決定について報告しました。今回は、この構成資産についてお知らせします。

《沖ノ島》

沖ノ島は、朝鮮半島と九州の間に位置し、四世紀から九世紀末まで、対外交渉の成就と航海の安全を祈って国家的祭祀が実施された島です。島の中腹にある巨岩群から23カ所の祭祀（さいし）遺跡が確認され、発掘調査で出土した約8万点の遺物は国宝に指定されています。国家形成期から遣唐使の時代に至る500年間にわたる遺構と埋蔵資料が良好に保存されていて、初期祭祀の変遷過程を示す貴重な遺産です。

《宗像神社（宗像大社）》

沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、本土田島の辺津宮の三宮からなる神社です。沖ノ島祭祀を起源として、「海北道中」という海域を守る「道主貴（みちぬしのむち）」と称される宗像三女神を祭る、島伝いの壮大な三宮の神社へと発展を遂げた、特異な資産です。

《津屋崎古墳群（新原・奴山古墳群）》

新原・奴山古墳群は、五世紀前半から六世紀後半にかけて築造され、前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の計41基からなり、海を望む台地に築かれています。沖ノ島祭祀を発展させた古代宗像における、海の民の集団のあり方、「海北道中」を支配した海の民としてのあり方を最も良く表象するものです。

今後、この3つの資産を中心に緩衝地帯を設定し、平成26年の推薦書提出を目指して進めていきます。



沖津宮



中津宮

みなさんの投票で決定します～市原動機付自転車ナンバープレート～

2012年10月01日

ナンバープレートのデザイン案に、多数の応募をありがとうございました。応募数123点の中から、A～Cの3点を選考委員会で優秀作品に決定しました。この中から、市民投票で最優秀作品（採用作品）を決定します。みなさんの投票を待っています。



●投票要件 市民 *投票は1人1回

●投票方法 10月23日（火）までに、専用用紙かハガキに、①A～Cのデザイン案いずれか1点②住所③氏名（フリガナ）④電話番号を明記して、次のいずれかの方法で申し込む

▽市役所総合案内、海の道むなかた館、各コミセンに設置の投票箱に投かん

▽郵送（〒811-3504／深田 588／海の道むなかた館「ナンバープレート市民投票係」）

*郵送は10月23日（火）必着

●その他 投票者の中から抽選で50人に採用作品のデザインが入ったオリジナルクオカードを贈呈

*当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます

宗像市原動機付自転車ナンバープレート まもなく誕生！

2012年10月15日

オリジナルナンバープレートは、宗像市が、県内では大野城市に次ぐ2番目の導入自治体になります。市民投票で決定したデザインは市広報紙で発表。交付は来年6月からを予定していて、新規発行者と変更希望者を対象に交付します。また、交付前には希望する番号を抽選で事前予約できる期間を設けますので楽しみにしてください。

以下の要領で、宗像市のオリジナルナンバープレートを選ぶ市民投票を実施しています。みなさんの投票を待っています。

●投票要件 市民 *投票は1人1回

●投票方法 10月23日(火)までに、専用用紙かハガキに(1)A~Cのデザイン案いずれか1点(2)住所(3)氏名(フリガナ)(4)電話番号を明記して、次のいずれかの方法で申し込む

▽市役所総合案内、海の道むなかた館、各コミセンに設置の投票箱に投かん

▽郵送(〒811-3504/深田588/海の道むなかた館「ナンバープレート市民投票係」)

*郵送は10月23日(火)必着

*専用用紙は広報紙10月1日号と一緒に配布か、市役所、海の道むなかた館、各コミセンに設置

●その他 投票者の中から抽選で50人に、採用作品のデザインが入ったオリジナルクオカードを進呈(当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます)



世界遺産への道 47 《宗像の未来図 世界遺産に登録されたら》

2012年11月15日

○世界遺産登録の目的と市民との関わり

本遺産群の構成資産は、沖ノ島、宗像神社＝宗像大社（沖津宮、中津宮、辺津宮）、津屋崎古墳群（新原・奴山古墳群）に決まりました。これは、県知事を会長とする世界遺産推進会議で平成24年8月に決定したものです。この推進会議は、本遺産群の価値の証明や世界遺産推薦書提出に向けた内容の確定など、大きな役割を担っています。

ところで、この世界遺産登録活動に何か協力できることはないかという質問を市民のみなさんからよくもらいます。それには、まず、この活動の目的を理解し、行動に変えてほしいと考えています。

その目的とは、宗像の貴重な遺産をみんなで守っていくということです。沖ノ島は一言でいうと「神聖な島」です。世界遺産登録を進める上で、沖ノ島の価値や信仰の意味を理解し、沖ノ島が神聖な島であるという意識を高めることが重要です。

現在の宗像市は、福岡市と北九州市のベッドタウンとなり、居住空間として重要な役割を担っています。問題は、この居住空間の拡大や開発などから、文化・歴史景観地区（*1）をどのように守っていくかです。

今後、世界遺産の構成資産を保護するための緩衝地帯は、手厚いルールを作る必要があります。このルール作りには市民の参画が不可欠です。さまざまな開発で作り変えられた宗像よりも、本来の良さをありのままに感じられる宗像を目指していくことが必要です。

（*1）文化・歴史景観地区とは、宗像大社や鐘崎の織幡神社などの周辺には、山、川、海、農村漁村集落など昔ながらの懐かしい風景があるように、土地に刻み込まれた歴史的・文化的な空間を景色として見てとれる景観地区のこと



県知事を会長とする世界遺産推進会議



昔懐かしい大島の漁村風景

○価値を受け継いでいくことが大切

本遺産の価値は、資産が複数で内容も分かりづらく、また、通常は上陸できない沖ノ島を身近に感じられないという意見もあります。

このため、本年4月には「海の道むなかた館（郷土文化学習交流館）」を世界遺産のガイド施設として開館。本遺産を紹介した3Dシアターや、パネルで本遺産を詳しく紹介しています。

この他、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌などで、本遺産の価値を伝えています。そのため、国内で少しずつ本遺産のことが知られるようになりました。

通常、沖ノ島へは上陸できませんが、それ以外の構成資産へ行くことができます。その取り組みとして、市内の市民団体がバスツアーや講座、さまざまなイベントを開催するなど、世界遺産登録に向けて活動しています。

シンポジウムやミュージカルなどの啓発活動を通じ、幅広い年齢層の人たちに関心を深め、宗像の歴史・文化を守り、語り伝えていくことが大切です。



第4回本遺産国際シンポジウム



参加型ミュージカル「むなかた」



海の道むなかた館での三姉妹演奏

○世界遺産登録活動の本当の目的

本遺産の他にも、国内には12件の遺産が暫定リストに記載され、次の世界遺産登録を目指しています。早いところでは「富士山」や「武家の古都・鎌倉」が平成25年度の登録を目指しています。

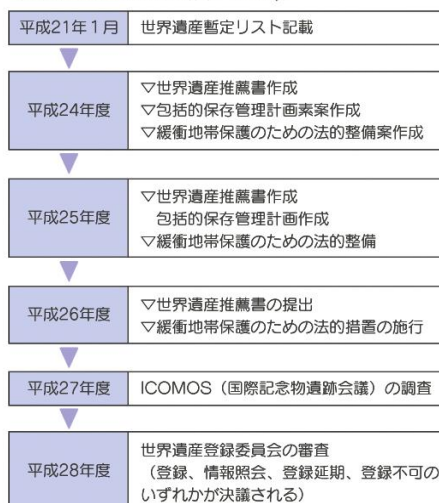
推薦書は平成24年度から、1つの国から文化遺産1件のみの申請となっています。登録そのものが難しくなっている状況の中、推薦書の提出を予定している案件は数多くあり、先行きはまだ不透明です。ただし、はっきりしていることは、世界遺産の価値として証明が整い、資産と緩衝地帯の保護体制が確実に整ったところから推薦書を提出することができるということです。

世界遺産に登録されることで、市への訪問者が増加し、交通渋滞、ごみの散乱、遺産の損壊などが心配されます。そのためにも、宗像の環境を保護しながら受け入れ態勢の充実を図っていく必要があります。

宗像の歴史にふさわしいまちの景観は、実際に住んでいるみなさんとつくり上げていくものです。特に、資産候補のある田島の辺津宮周辺や大島などは、文化歴史景観地区として重要な地域です。今年完成した神湊ターミナルは、和風にこだわり、訪れた人に宗像の風土を感じてもらおうようになっています。緩衝地帯に求められることは、資産と周辺の歴史的な景観を保護することです。本来の宗像の景観は、山があり、川があり、田畑があり、山と田んぼの間に集落が営まれ、海岸には漁村や松原があります。歴史に裏打ちされた当たり前の景観を残していくことが重要です。

何よりも、今、この地に生まれ育っていく子どもたちに、宗像の歴史や自然について理解してもらい、将来、市外で生活を始めたとしても、自信と誇りを持って故郷のことを伝えることができるまちづくりを目指すことが、世界遺産登録活動の本当の目的だと考えています。

【世界遺産登録までの流れ（予定）】



* 情報照会とは追加書類を提出し、翌年に再審査。登録延期はより深い再検討が必要で、不登録は原則として再推薦できない

世界遺産登録活動をPR 原動機付自転車ナンバープレートデザイン決定！

2012年11月15日

オリジナルナンバープレートデザインの市民投票に、多数の投票をいただきありがとうございました。みなさんの投票の結果、選考委員会で選定した3点の優秀作品の中から北野公一さん（和歌山県田辺市）の作品が最優秀作品に決定しました。

市民投票を、9月20日から10月23日まで実施した結果、合計3998通の投票があり、北野さんの作品が最も多い1597票を獲得しました。

【来年7月1日から交付開始 希望ナンバーも選べます】

オリジナルナンバープレートは、平成25年7月1日（月）から交付予定です。現在付けているナンバープレートも、新しいデザインへ無料で交換できます（交換時、自賠責保険の変更手続きが必要な場合があります）。

また、オリジナルナンバープレートの導入を記念して、希望番号（ナンバーリクエスト）を受け付けます。受付開始は、来年5月中旬を予定しています。詳しくは、市の広報紙やホームページでお知らせします。

*この事業は、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産登録活動のPRと、旧宗像市と旧玄海町の合併10周年記念事業の一環として実施しています

*プレゼントのオリジナルクオカード（抽選で人）は、月下旬発送予定です

●オリジナルナンバープレートの対象車種

対象の種類	下地の色
原動機付自転車第一種（～50cc）	白色
原動機付自転車第二種乙（～90cc）	黄色
原動機付自転車第二種甲（～125cc）	桃色
原動機付自転車ミニカー	水色

*実際のナンバープレートは、デザインを若干変更する場合があります

最優秀作品の北野公一さんの作品



【作品のコンセプト】

海の線上に浮かぶ沖ノ島と道の神「宗像大社」の屋根部分を配したプレートに仕上げました。

世界遺産への道48 <<「宗像大社」と「宗像神社」ふさわしいのはどっち？>>

2012年12月15日

現在、宗像大社は、世界遺産候補の1つとして「宗像神社」という名称を使用しています。宗像大社の鳥居の扁額（へんがく）にも、「宗像神社」と書いてあります。また、歴史的にも宗像神社や宗像宮、宗像社と呼ばれていました。

文献では、「続日本後紀」承和5年（838年）で「宗像神社や阿蘇神社、香椎宮などが遣唐使の平安を祈らせる」と記されています。また、「延喜式」延長5年（927年）には、宗像神社三座が神名帳に列挙され、正式な神社名として登録されています。

明治34年に官幣（かんぺい）大社に昇格した宗像神社は、終戦後の昭和21年に宗教法人「宗像神社」として登記されますが、昭和52年には宗像大社に名称変更されました。

現在、多くの人に「宗像大社」として親しまれているため、「宗像神社」に違和感を持つ人も多いのではないのでしょうか。

ユネスコ世界遺産センターに提出する推薦書に「宗像大社」と「宗像神社」のどちらを用いるかは、歴史的価値と認知度などを考慮し、どちらの用語が最もふさわしいか、今後も専門家を交えて議論していきます。



宗像神社と書かれている鳥居の扁額

世界遺産への道 49 《史跡と天然記念物保存管理調査》

2013年01月15日

世界遺産の構成資産候補となった宗像大社は、沖ノ島の沖津宮と大島の沖津宮遙拝所・中津宮、田島の辺津宮が「宗像神社境内」として、昭和46年に国の史跡に指定。沖ノ島は、「沖の島原始林」として大正15年に国の天然記念物に指定されています。

文化財保護法に基づく「史跡と天然記念物」を、未来永劫（えいごう）どのように保護し、管理していくかをまとめ、平成25年度に「宗像大社が所有する史跡と天然記念物」の保存管理計画として策定します。この計画のため、本年度は史跡地内や天然記念物環境調査を実施しました。

【沖ノ島～祭祀遺跡と原始林～】

沖ノ島（沖津宮）に関しては、50年前に実施された祭祀（さいし）遺跡周辺の調査地などを入れ、詳細な測量図を作成しました。祭祀遺跡に関しては、オオミズナギドリの巣穴で土器が露出し、遺跡に接した木の根が大きく成長していることを確認しました。

「沖の島原始林」に関しては、祭祀遺跡周辺で原始林の状態を良く残しています。しかし、第二次世界大戦中に軍道や兵舎などが造られたことで、島全体としては、原始林を保ちながらも二次林化（自然林を伐採した後、自然に再森林化すること）した部分も確認されました。

【大島～大島御嶽山遺跡と中津宮への参道～】

大島御嶽山遺跡は、古事記や日本書紀に登場する中津宮を示す重要な遺跡です。大島御嶽山遺跡と中津宮から同遺跡への参道を、すでに国の史跡に指定されている中津宮に付随するものとして追加指定される予定で、中津宮と併せて調査しました。

【田島～江戸時代の絵図と現状を比較～】

辺津宮は、建造物や鳥居、灯籠（とうろう）、社叢（しゃそう）、池など、あらゆる構造物や工作物を確認し、江戸時代に描かれた絵図と比較しながら、形状変化などを確認しました。

時代の変化とともに、史跡や天然記念物のあり方も変化します。変化を繰り返す中で、価値を損なわず、将来世代へ引き継ぐためのより良い方策とは何か、専門家や市民の意見を取り入れていきます。

また、所有者の宗像大社と協議も重ねながら、人類共有の財産である「宗像神社境内」と「沖の島原始林」の保護保全管理のあり方をマニュアル化していきます。



オオミズナギドリの巣穴と土器



「沖の島原始林」のタブノキ

世界遺産への道50 《御嶽山から見える範囲が古代の海域》

2013年02月15日

標高223・2メートルの御嶽山は、大島で最も高い山です。中津宮の裏に参道があり、ハイキングコースとして家族連れで簡単に登ることができます。山頂には、御嶽神社が鎮座し、その周辺から古代の祭祀（さいし）遺跡が見つかっています。

現在、山頂周辺には、展望台があります。天候が良ければ、福岡市、北九州市はもちろん、壱岐・対馬（長崎県）、脊振山系（佐賀県との県境）、英彦山（大分県との県境）、下関（山口県）を一度に見渡すことができます。

古代、日本から大陸へ渡るため必須だった航海では、必ず、大島や沖ノ島から見える範囲を航行していました。この海域は、朝鮮半島との最短距離でしたが、玄界灘の荒波が最大の難関だったため、自然の驚異を恐れ、航海（交通）の安全を神に祈り、祭祀が沖ノ島だけでなく大島でも始まったのです。このようなことを思い浮かべながら、ぜひ一度、大島御嶽山へ行ってみませんか。



御嶽山から見た沖ノ島

世界遺産への道51 《トヨタ九州と一緒に世界遺産をPR》

2013年03月15日

宗像市、福津市、県、関係団体などで構成する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が、トヨタ自動車九州株式会社・ウイング21PR館の2階に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を紹介するブースを設置。この協定書調印式が1月30日、同館で実施されました。



固い握手を交わす河合宏一県企画・地域振興部次長、トヨタ九州二橋岩雄社長、谷井博美市長、小田達也福津市副市長（右から）

同館は、車作りを中心としたトヨタ自動車九州のさまざまな取り組みを紹介する施設で、年間約5万人以上が来館しています。

ブースでは、遺産の価値を分かりやすく紹介するビデオ放映やパネル展示の他、古代の衣装を再現した貫頭衣（かんとうい）や田野瀬戸古墳（田野）から出土した6世紀ごろの甕（かめ）を展示しています。

二橋社長は「地域に歴史ある遺産があることを誇りに思う。世界遺産登録活動の広がりの一助になればうれしい」とあいさつ。谷井市長は「登録のためにも多くのみなさんに知ってもらうことが重要」と述べました。

宗像市と福津市に世界的な歴史遺産があることを知ってもらえる良い機会となりました。みなさんもPR館に行ったときは、ぜひ立ち寄ってください。

*田野瀬戸古墳は、世界遺産登録の構成資産ではありませんが、沖ノ島が望める場所にあり、沖ノ島祭祀（さいし）を実施していた宗像氏の古墳です



田野瀬戸古墳から出土した甕を観覧する谷井市長と二橋社長（右から）